

## ウクライナ語における 不完了相未来時制に関する一考察

武川直幹

[резюме]

К Вопросу о будущем времени несовершенного вида в украинском языке

ТАКЭКАВА Наоки

В украинском языке существуют три формы обозначения действия в будущем времени. Форма будущего времени глаголов совершенного вида образуется просто, как форма настоящего времени глаголов несовершенного вида. Глаголы совершенного вида изменяются по лицам и числам.

Но что касается глаголов несовершенного вида, в украинском языке два варианта обозначения будущего времени: составная форма и простая форма. Составная форма включает в себя два глагола: «бути» (на русском языке «быть») и инфинитив основного глагола. Простая форма состоит из инфинитива основного глагола и суффикса (-му, -меш, -ме...), который обозначает будущее время.

В большинстве учебников по украинскому языку объясняется, что между составной формой и простой формой нет ни семантической, ни функциональной разницы. С точки зрения общей лингвистики, две или больше форм, которые имеют один и тот же смысл, не могут одновременно существовать в одном языке.

В данной статье мы рассмотрели различия между двумя формами будущего времени несовершенного вида в украинском языке.

Из разных газет на украинском языке были выбраны и проанализировали примеры употребления двух форм будущего времени несовершенного вида. Кроме того, мы провели анкетирование среди носителей украинского языка. Информантам были заданы вопросы, связанные с употреблением глаголов несовершенного вида в будущем времени.

Опираясь на данное исследование, мы сделали следующий вывод. Между составной формой и простой формой нет принципиальной разницы, как и отмечается в учебниках по украинскому языку. Однако при употреблении двух форм среди носителей существуют некоторые тенденции.

キーワード：ウクライナ語、合成未来形、総合未来形、不完了相未来時制

## 1. はじめに

## 1.1 問題提起

ウクライナ語はスラヴ語派に属し、ロシア語、ベラルーシ語とともに、その東のグループを形成している言語である。ロシア語、ベラルーシ語との間には、音声面、文法面、語彙面で非常に多くの共通点があり、ほぼ方言的ともいえるくらいの近い関係にある<sup>1</sup>。

しかし、ロシア語やベラルーシ語とは語彙や格形式などの点で異なる面も数多く存在する。本研究で取り上げるものはその中でもウクライナ語の未来時制についてである。

東スラヴ語群及び西スラヴ語群において未来を表す形態は通常2つ存在するとされている。それは、①完了相動詞を人称変化させる形態と、② be 動詞と不完了相動詞の不定形とを組み合わせた形態である。しかし、ウクライナ語には未来を表す形態において上記の①②以外に、③不完了相動詞の不定形に未来を示す接尾辞をつける形態が存在する。本稿では、①を単純未来形、②を合成未来形、③を総合未来形と呼ぶこととする<sup>2</sup>。

これらの形態を「読む」という意味の動詞 читати を用いて人称変化させたものを表1で示す。

ウクライナ語の参考書などによると、合成未来形と総合未来形の間には意味、用法上の違いが存在しないということになっている<sup>3</sup>。

しかし、通常一言語において同じ意味（ここではウクライナ語の不完了相動詞の未来時制）を表すために2つの形式が同時に存在することは、一般言語学的に不合理であるといえる。この観点から、合成未来形と総合未来形の間には何らかの機能的、あるいは意味的な違いが存在するのではないかという疑問が本研究の出発点である。

[表1]

## ① 単純未来形

人称	単数	複数
1	прочитаю	прочитаємо
2	прочитаєш	прочитаєте
3	прочитає	прочитають

## ② 合成未来形

人称	単数	複数
1	буду читати	будемо читати
2	будеш читати	будете читати
3	буде читати	будуть читати

## ③ 総合未来形

人称	単数	複数
1	читатиму	читатимемо
2	читатимеш	читатимете
3	читатиме	читатимуть

## 1.2 研究の目的と意義

1.1 で述べたように本研究の目的は、ウクライナ語の合成未来形と総合未来形の間は何らかの違いを見出すことにある。本研究は、日本ではもちろん世界でもなかなか着手されていないテーマであり、おそらくウクライナ語学における最初の試みのひとつである。

## 2. 先行研究と仮説

ウクライナ語の不完了相未来時制に関する先行研究は極めて少なく、中でも合成未来形と総合未来形の違いに言及する研究は、筆者の知る限り、ほとんど存在しなかった。しかし学問的に全く議論がなされていないかという点、決してそういうわけではない。

（前略）この人称語尾（*му, мені* などの部分）は、歴史的には「持つ、取る」という意味を表した古い動詞（現代ウクライナ語では *мати* {*mati*} 「持つ」がこれに由来する）の人称形（1 人称・単数 *иму* {*imu*}、2 人称・単数 *имеш* {*imesh*} のように変化）が動詞の不定形に融合したもので、ウクライナ語系の文書では、1500 年代中頃からこの形が見られる。現代語では、*буду читати* 形と *читатиму* 形の意味上の差はなく、どちらを用いるかは、個人、地域によって異なる<sup>4</sup>。

このように合成未来形と総合未来形に明確な意味上の差異を認めないという立場から、漠然と両者の違いについて言及しているものが大半である。ここではウクライナ語の不完了相未来時制について示した先行研究を提示した後、それらを踏まえながらウクライナ語の合成未来形と総合未来形の違いに関する仮説を立てる。

### 2.1 意味的・統語的な差異

ウクライナ語学では合成未来形と総合未来形の間には意味の差異は存在しないというのが通説であるが、Mykhaylyk (2010) は次のように述べている。

*For some speakers, however, the synthetic imperfective form (e.g., čytatymu) might seem more formal in some contexts than the analytic imperfective form (e.g., budu čytaty)*<sup>5</sup>。

Mykhaylyk (2010) の言説は、ある文脈においては合成未来形より総合未来形の方がよりフォーマルな形態であるとみなす話者もいることを示している。

統語的な観点ではウクライナ語の不完了相動詞は基本的に *be* 動詞である *бути* を除き、すべて合成未来形と総合未来形を作ることが可能である。ウクライナ語はすべての動詞の不定形が例外なく *-ти* で終わるため、発音・正書法上での例外的な変化は基本的には起こらない。

しかし、ウクライナ語において再帰動詞の総合未来形は人称変化形が通常の変化と少し異なる。参考までに「見る」という動詞 *дивитися* の総合未来形を人称変化させたものを表2にて示す。

[表2]

再帰動詞の総合未来形

人称	単数	複数
1	ДИВИТИМУСЯ	ДИВИТИМЕМОСЯ
2	ДИВИТИМЕШЯ	ДИВИТИМЕТЕСЯ
3	ДИВИТИМЕТЬСЯ	ДИВИТИМУТЬСЯ

これは *e* 変化動詞（現在変化において *-ю, -еш, -є, -ємо, -єте, -ють* と変化する動詞）に *ся* が付いた場合、三人称単数のときに *ть* が間に入り、*-ється* もしくは *-ється* となる規則による

ものである。(表2の下線は筆者による加筆。)

また、ウクライナ語において бути はそれ自体が未来の意味を含んでいるため、合成未来形や総合未来形を作ることとはできない<sup>6</sup>。

## 2.2 地域的な差異

Pugh(1999) は、合成未来形と総合未来形の違いについて地域差という視点から次のように述べている。

*There is no functional or semantic difference between the two future formations; the synthetic tends to be used less frequently than the analytic, especially in West Ukraine.*<sup>7</sup>

Pugh(1999) の言説は、合成未来形と総合未来形は機能的、意味的な違いはないが、西ウクライナでは合成未来形の方が総合未来形よりも比較的多く使用されていることを示している。

加えて、Mykhaylyk (2010) は、ウクライナ南西方言においては合成未来形と総合未来形の他にまた別の不完了相未来時制の形態が存在しているということを指摘している。それを再び「読む」という意味の動詞 читати を用いて人称変化させたものを表3にて示す<sup>8</sup>。

[表3]

特殊合成未来形

人称	単数男性	単数女性	複数
1	буду читав	буду читала	будемо читали
2	будеш читав	будеш читала	будете читали
3	буде читав	буде читала	будуть читали

特殊総合未来形

人称	単数	複数
1	му читати	memo читати
2	меш читати	мете читати
3	ме читати	муть читати

上記の変種はどちらもウクライナ南西方言でのみ見られる変種の形態である。便宜上前者を特殊合成未来形、後者を特殊総合未来形と名付ける。特殊合成未来形は be 動詞の人称変化形にスラヴ語において過去を表す形態である I 分詞<sup>9</sup>を組み合わせる形態となっている。また、特殊総合未来形は総合未来形において接尾辞であった部分 (му, меш などの部分) が接語として分離している。繰り返しになるが、これら2つの形態は標準ウクライナ語の不完了相未来時制の形態ではなくウクライナ南西方言の地域変種である。

特殊合成未来形や特殊総合未来形は Žylko(1966)<sup>10</sup>、Whaley(2000)<sup>11</sup> においてもその存在が言及されている。またウクライナ西部に位置するリヴィウ州の北部・北西部では、この特殊合成未来形が広く普及し、同じくウクライナ西部に位置するテルノーポリ州でも特殊合成未来形が優勢であり、標準の合成未来形は公式な場でのみ使用するといったデータも存在する<sup>12</sup>。

本研究では標準ウクライナ語の合成未来形と総合未来形の違いを見出すことを目的としているため、地域変種と見なし得る特殊合成未来形や特殊総合未来形は考慮しないものとする。

### 2.3 歴史的観点からの総合未来形

ウクライナ語の総合未来形はスラヴ語派の中でも特徴的であるため歴史言語学的なアプローチから研究されることが多い。一般的にウクライナ語の総合未来形で使われる接尾辞は「持つ」の意味を持っていた動詞 *imati* が文法化したものとされている。Dahl (2000)<sup>13</sup> はウクライナ語の総合未来形をイタリア語やフランス語などのインド・ヨーロッパ語族の中でもロマンス諸語の未来時制と同じ類型として位置付けている。このタイプは「持つ」という意味の動詞（以降 *have* 動詞と呼ぶ）が文法化して未来を表すこととなった言語の類型である。ウクライナ語の総合未来形も *have* 動詞 (*imati*) が文法化して未来を表す接尾辞となったとされていたので、この類型に属するとされた。

しかしながら、Danylenko (2010)<sup>14</sup> はこの類型組みに対して次のように批判をしている。

*the Ukraine SF is a continuation of the de-inceptive PC with a weak grammaticalization of the auxiliary jati (<jeti) 'to take' <sup>15</sup>*

Danylenko (2010) はウクライナ語の総合未来形は昔の「取る」を意味する動詞 (*take* 動詞) *jati* が文法化した形態であると主張している。実際この2つの動詞は屈折形が非常に近似しており、一部の語形が重複しているところも多いため、判別が難しいとされている。このようにウクライナ語の総合未来形に関する歴史言語学的な研究も一定の程度存在する。

これらの議論は直接本研究と結びつくものではないが、ウクライナ語の不完了相未来時制に関する研究のひとつとして、また総合未来形の歴史的背景として紹介した。

### 2.4 仮説

これまで見てきたようにウクライナ語の合成未来形と総合未来形の違いに関する議論は全く存在しなかったわけではないが、同時に有力な定説が存在しないということも判明した。ここでは上記の言説などに基づき、この両者の違いについて考えられる4つの仮説を次に示す。

仮説 A 2つの形態は会話の参加者、言語使用の状況によって使い分けられ、そこには意味的な違いが存在する。

仮説 B 2つの違いは地域変種的なものであり、どちらが使用されるかはその地域に住む人々によって異なる。

仮説 C ある動詞、ある文においては2つの形態の内どちらかが優先され、どちらかが制限される。

仮説 D 2つの形態は現在同じ意味や用法を持ちながら共存している状態である。今後どちらか一方が消滅し、もう片方が残存する<sup>16</sup>。

## 3. 研究方法

ウクライナ語の合成未来形と総合未来形の違いについて、本研究では主に使用選択の基準や傾向について調査を行った。本調査は、2.4 で提示した仮説の証明の前段階である、合成未来形と総合未来形の使用の傾向を明らかにするものである。

### 3.1 新聞媒体を使用した調査

まず新聞媒体を用いて、ウクライナ語の合成未来形と総合未来形のどちらが優先的に使用される傾向にあるのか調査を行った。ここでは2.1で示した文体的な差異に着目し、文語として比較的フォーマルで標準的な形式を用いる新聞を調査資料とした。また新聞はキエフとリヴィウで発行されている各々2つの新聞社を使用した<sup>17</sup>。この中で合成未来形と総合未来形の使用頻度と使用の傾向を分析する。

### 3.2 アンケート調査とインタビュー調査

3.1での調査を踏まえて、合成未来形と総合未来形の使用に関してウクライナ語母語話者にアンケート調査とインタビュー調査を行った。

## 4. 結果

### 4.1 新聞媒体を使用した調査の統計

今回の調査ではウクライナ語で記述されている4つの新聞社(Уніан, Хрещатик, Львівська газета, Експрес)の記事において不完了相未来時制が使用された記事を抽出した。記事中で合成未来形と総合未来形のどちらの形態が使用される傾向にあるのか、合成未来形のみ出現した記事と総合未来形のみ出現した記事、加えて両形態とも出現した記事という3分類で統計を行った。

その結果、今回調査を行った全116の記事の中で、1つのまとまった文章において合成未来形のみ出現した記事が55、総合未来形のみ出現した記事は51となった。そして両形態とも出現した記事は10であった。

全記事、各新聞社における統計の結果を表4に示す。

[表4]

	合成未来形	総合未来形	両形態
Уніан	16	11	2
Хрещатик	17	10	4
Львівська газета	9	21	3
Експрес	13	9	1
全体	55	51	10

### 4.2 新聞媒体を使用した調査の分析

仮に2.1で指摘されたように総合未来形の方が合成未来形よりもフォーマルな形態であるならば、比較的フォーマルな形式を用いる新聞においては総合未来形の使用頻度の方が多くなると予想されたが、本調査においては合成未来形と総合未来形は全体として同程度の頻度で使用された。また合成未来形と総合未来形の両方が同記事中に使用された用例も少なからず存在した。この統計において Львівська газета のみ総合未来形の使用が顕著であったが、他の3つの新聞社では合成未来形の方が比較的多く使用されている。この理由に関しては定かではないが、執筆した記者個人の使用傾向によるものではないかと私は考える。

さらに、集計したデータの中で見られた合成未来形と総合未来形の使用に関する一定の傾

向を記述する。

・ある2つの動詞 становити（「構成する」という意味）、тривати（「続く」という意味）においてはすべて（20例）総合未来形の形態で出現した。

例1：Денна температура повітря становитиме 8-13 градусів тепла У центральній частині опадів не очікується. Температура повітря вдень 9-14 градусів тепла.<sup>18</sup>

例2：У Львові хмарна погода буде триматися до самого вечора. Без опадів. Температура повітря вночі становитиме від 3 градусів тепла до 0 ближче до ранку, а вдень повітря прогріється до 17-18 градусів.<sup>19</sup>

例3：При цьому керівник американського офісу Volkswagen Міхаель Горн зазначив, що швидкого розв'язання проблеми чекати не варто. За його словами, воно триватиме не менше двох років.<sup>20</sup>

・天気に関する記事の場合、総合未来形の形態で出現する傾向にあった。（10例中8例）

例4：У центральних областях вдень температура підніметься до +9..+12, вночі - +4..+6. На півдні вдень +12..+14, в Одеській області до +15. Нічна температура коливатиметься від +3..+8.<sup>21</sup>

例5：Пориви вітру подекуди становитимуть 15-20 м/с. На високогір'ї Карпат – хуртовини.<sup>22</sup>

・インタビューや会話形式の直接引用においては合成未来形が多く出現する傾向にあった。（22例中17例）

例6：«Зараз вона затримана на 48 годин. У суді буде вирішуватися питання про її арешт», - повідомив співрозмовник агенції.<sup>23</sup>

例7：«Найближчим часом ми будемо видавати якісь ідеї на цей рахунок з тим, щоб спростити і більше відкрити для кримчан саме наші вузи і дати їм можливості складати ЗНО. Одна з ідей - створення спеціального порталу, щоб це можна було робити онлайн», - розповів міністр.<sup>24</sup>

例8：«Росія дійсно збирається вимагати \$ 3 мільярди, це не жарти. Я дуже сумніваюся, що в РФ погодяться обміняти відмову від виплати на щось. Від України вони мало що можуть отримати, тому думаю, що будуть натискати в повному обсязі», — заявив Ілларіонов.<sup>25</sup>

### 4.3 アンケート調査とインタビュー調査の結果

4.1 や 4.2、また 2.4 で提示した仮説を基に合成未来形と総合未来形の使用の傾向に関するアンケート調査とインタビュー調査を実施した。今回集まったアンケートは合計 13 でその中でインタビューを行ったものは 3 である。

アンケート調査とインタビュー調査で尋ねた質問とその結果を下記に示す。

(1) Яку форму Ви використовуєте частіше? З-поміж запропонованих в дужках варіантів оберіть найвлучніший. Якщо обидві форми підходять, оберіть два варіанти.

- Завтра я їду на дачу, де (1.a) (буду купатися / купатимусь) в річці.
- Професор : Що Ви (1.b) (будете робити / робитимете) завтра? Цілий день будете вдома?
- Студент : Ні. Вранці я (1.c) (буду читати / читатиму), вдень(1.d) (буду гуляти / гулятиму) в місті.
- Вітер південно-східний вночі 5-10 м/с, вдень 9-14 м/с, поривчастий. Температура повітря вночі (1.e) (буде становити / становитиме) 0-2 тепла, вдень 7-9 тепла
- У газетах (1.f) (будуть писати / писатимуть), що в Києві чудово.
- Тут (1.g) (будуть облаштовувати / облаштовуватимуть) тротуари і (1.h) (ремонтувати / ремонтуватимуть) дорогу.

[ 表 5 ]

	合成未来形	総合未来形	両形態
1.a	9	1	3
1.b	6	5	2
1.c	9	2	2
1.d	4	7	2
1.e	2	9	2
1.f	2	9	2
1.g	10	2	1
1.h	7	5	1

(2) Прочитайте уривки та оберіть з-поміж(A) – (D).

- (A) Речення є природним та граматично досконалим.

(B) Речення є граматично досконалим, але звучить неприродно.

(C) Речення є неправильним.

(D) Важко відповісти.

(2.a) Національний банк України не має наміру штучно утримувати коридор для нацвалюти і у випадку коливань купуватиме й буде продавати валюту за курсом, який встановить ринок.

(2.b) Завтра буде холодно, і ми будемо читати та дивитимемося фільм.

(2.c) Завтра у Львові хмарна погода буде триматися до самого вечора. Без опадів. Температура повітря вночі становитиме від 3 градусів тепла до 0° ближче до ранку.

(2.d) Синоптики повідомили, якою будиме погода найближчим днями.

(2.e) З понеділка можна буде поспати перед роботою на годинку довше.

(2.f) Він запевнив, що система соцзахисту не стоятиме на місці і буде далі розвиватися і ставатиме зручнішою для громадян.



[表6]

	A	B	C	D
2.a	1	9	2	1
2.b	4	6	3	0
2.c	10	3	0	0
2.d	0	0	13	0
2.e	12	0	1	0
2.f	7	4	2	0

#### 4.4 アンケート調査とインタビュー調査の分析

(1)の質問は未来時制が含まれる文章を提示し、インフォーマントにその文章において自分なら合成未来形と総合未来形のどちらを普段使用するかを尋ねたものである。このとき合成未来形と総合未来形を同程度に使用する場合も考慮し、両形態という選択肢も設けた。

(1.a)は基本的な不完了相未来時制を用いる文章を提示し、インフォーマントが普段どちらの形態を使用しているか確認したものである。しかし、結果は性別、年齢、出身地を問わず合成未来形に偏った。一方、(1.b)では合成未来形と総合未来形の2つに回答が分かれた。これは会話の発言者、参加者によって合成未来形と総合未来形の使用が変化する可能性を示唆しているように思える。(1.c)では(1.a)にて合成未来形を選んだインフォーマントのほとんどが同様に合成未来形を選択した。

興味深いことに、(1.d)ではインフォーマントによって回答が分かれた。合成未来形を並列する場合、буду を連続して繰り返し使用することは避けるべきで、(1.d)では不定形である гуляти だけの方が自然であると答えたインフォーマントと буду はこの文章の場合、文法的につけなければならないと答えたインフォーマントの対立があった。

(1.e)、(1.f)では総合未来形に回答が偏った。どちらの文章もフォーマルなニュアンスが感じられたため、総合未来形の方が自然であると回答したインフォーマントが多くみられた。

(1.g)では話し言葉において総合未来形である облаштовуватимуть は語が長く複雑であるため、合成未来形の方を好むと答えたインフォーマントが多かった。(1.h)では(1.d)での議論と同じような意見の対立がみられた。

(2)の質問は提示された文章が文法的に正しいか、また自然な文章であるかどうかを尋ねたものである。

(2.a)は総合未来形を先に合成未来形を後にした並列文、一方、(2.b)は合成未来形を先に総合未来形を後にした並列文を提示した。結果はどちらも文法的には正しいが不自然な文であると回答したインフォーマントが多かった。しかし、(2.b)に関しては(2.a)と違い、自然に感じると回答したインフォーマントが若干存在した。

(2.c)は同じ文章の異なる文で合成未来形と総合未来形を配置したものである。これは不完了相未来時制の文体（スタイル）を揃える必要があるのか確認したものであったが、結果は文法的にも正しく、自然な文であると答えたインフォーマントがほとんどであった。

(2.d)に関しては先の2.1で指摘した通り бути の総合未来形は誤りであるため、選択肢C以外をマークしたインフォーマントのデータは今回本調査では無効とした。

(2.e) は不定形とともに用いる述語 можна の未来形 можна буде において完了相動詞を用いることができるか確認したものであったが、結果はロシア語における можно будет と同じように不完了相・完了相どちらでも使用はできると確認できた。

(2.f) は合成未来形と総合未来形を複合的に用いた文章を提示した。結果は (2.a)、(2.b) とは異なり、自然な文であると回答したインフォーマントが比較的多かった。

最後にインフォーマント自身の観点で合成未来形と総合未来形にはどのような違いがあるのかについて尋ねた。様々な意見があったが、全員共通して基本的に合成未来形と総合未来形には違いは存在しないと言及していた。

この項目で挙げられた合成未来形と総合未来形の違いに関するインフォーマントの意見を下記に示す。

- ・合成未来形は話し言葉として会話で使用される傾向があり、総合未来形はより標準的で書き言葉として使用される傾向がある。
- ・合成未来形はロシア語の借用であり、総合未来形の方がよりウクライナ語的である。
- ・地域によって合成未来形と総合未来形の使用の傾向は異なり、インフォーマントの出生地(ウクライナ東部)では総合未来形、ウクライナ西部では合成未来形が比較的多く使用されている。
- ・ある特定の動作そのものの未来を表すときに総合未来形、並列して述べられる動作全体の未来を表すときに合成未来形の方が自然に感じられる。

## 5. おわりに

### 5.1 結論

今回の調査によって、従来指摘されたことと同じ結論、つまりウクライナ語の合成未来形と総合未来形は基本的には違いが存在しないということが再確認された。

しかしながら、以下に示すような点で合成未来形と総合未来形にはその使用方法に関してある傾向が存在する可能性を含んでいる。それは従来の研究にて指摘されたものだけではなく、それ以外の非常に多くの点で合成未来形と総合未来形は使い分けられている可能性がある。今回の調査結果は 2.4 の仮説で示した合成未来形と総合未来形の違いの基準が、仮説 D を除き、すべて複合的に点在していることを示している。

最後に今回の調査にて判明した合成未来形と総合未来形の使用の傾向を以下にまとめる。

傾向 1: 合成未来形は話し言葉において使用される傾向があり、総合未来形はより標準的、フォーマルな状況で使用される傾向がある。

傾向 2: 地域によって合成未来形と総合未来形の使用の傾向は異なり、ウクライナ東部では総合未来形、ウクライナ西部では合成未来形を使用する傾向がある。

傾向 3: ある特定の動作そのものの未来を表すときに総合未来形、並列して述べられる動作全体の未来を表すときに合成未来形の方が使用される傾向にある。

傾向 4: 語の長い動詞の場合、総合未来形よりも合成未来形の方が好まれる傾向にある。

傾向 5：一文中に合成未来形と総合未来形を混合して使用すると不自然な文とされる傾向がある。しかし異なる文で使用されれば自然とされる。

上記の傾向 1、傾向 2 は従来の研究にてすでに指摘されたもので、傾向 3、傾向 4、傾向 5 は本研究にて新たに判明した傾向である。

## 5.2 今後の展望

今回の調査は方法論的、時間的要因により調査があまりにも小規模になってしまい、分析も十分に行うことが叶わなかった。そのため、ウクライナ語の合成未来形と総合未来形の使用の傾向の考察にとどまり、両者の違いや 2.4 において提示した仮説 D の検討にまで言及することができなかった。

今後、現地での大規模な調査やより効果的な方法論に基づく調査が望まれる。本研究の成果が今後のウクライナ語学の発展に少しでも貢献することを念願する次第である。

## 註

- 1 亀井孝、河野六郎、千野栄一 1998.『言語学大辞典 第 I 巻 世界言語編（上）』三省堂、825 頁。
- 2 中澤英彦 2009.『ニューエクスプレス ウクライナ語』白水社 文法用語はこれに準拠する。
- 3 同書、54-55 頁。  
中井和夫 1991.『ウクライナ語入門』大学書林、24 頁。  
三谷恵子 2011.『スラヴ語入門』三省堂、36-37 頁。
- 4 三谷前掲書、同所。
- 5 Roksolana Mykhaylyk 2010. “Diachronic universals and morpheme order in the Ukrainian synthetic imperfective future” *Morphology*, October 2010, Volume20, Issue2. p.360.
- 6 Stefan M. Pugh and Ian Press 1999. *Ukrainian a comprehensive grammar*. NewYork: Routledge. p.211, p.229.
- 7 Stefan M. Pugh and Ian Press 1999. *Ukrainian a comprehensive grammar*. NewYork: Routledge. p.229.
- 8 Roksolana Mykhaylyk 2010. “Diachronic universals and morpheme order in the Ukrainian synthetic imperfective future” *Morphology*, October 2010, Volume20, Issue2. P.378.
- 9 1 分詞という用語は三谷前掲書に準拠している。
- 10 Žylko F. T 1966. “Narysy z dialektolohiji ukrajins’koho movy” Kyiv: *Radjans’ka škola* pp.101-102.
- 11 Marika Lynn Whaley, M.A. 2000. “The evolution of the Slavic ‘be(come)’- type compound future” Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree Doctor of Philosophy in the Graduate School of The Ohio State University, dissertation. pp.58-59.
- 12 Marika Lynn Whaley, M.A. 2000. “The evolution of the Slavic ‘be(come)’- type compound future” Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree Doctor of Philosophy in the Graduate School of The Ohio State University, dissertation. p.59.
- 13 Östen Dahl 2000. “The grammar of future time reference in European language” In Ö Dahl(Ed.), *Tense and aspect in the languages of Europe* Berlin/New York: Mouton de Gruyter. p.315.
- 14 Andrii Danylenko 2010. “Is there any inflectional future in East Slavic? A case of Ukrainian against Romance reopened.” *Grammaticalization in Slavic Languages: from areal and typological perspectives*. Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University. pp.147-177.

- 15 Andrii Danylenko 2010. "Is there any inflectional future in East Slavic? A case of Ukrainian against Romance reopened." *Grammaticalization in Slavic Languages: from areal and typological perspectives*. Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University. p.161. SF は synthetic future、PC は periphrastic construction の略である。
- 16 P.J. ホッパー、E.C. トラウゴット 訳：日野資成 2003. 『文法化』九州大学出版会、14 頁。
- 17 Уніан キエフ発行 [http://www.unian.ua/] (2016 年 7 月 24 日閲覧)  
Хрещатик キエフ発行 [http://www.kreschatic.kiev.ua/] (2016 年 7 月 24 日閲覧)  
Львівська газета リヴィウ発行 [http://www.gazeta.lviv.ua/] (2016 年 7 月 24 日閲覧)  
Експрес リヴィウ発行 http://expres.ua/ (2016 年 7 月 24 日閲覧)
- 18 Погода порадує українців у святкову середу сонцем і теплом // Уніан. 2015.10.15
- 19 Завтра у Львові обіцяють хмарну погоду без опадів // Львівська газета. 2015.10.02
- 20 Експлуатацію продукції Volkswagen можуть заборонити у США // Експрес. 2015.10.12
- 21 Погода на сьогодні: тиждень почнеться ясним днем, на півночі – дощі // Уніан. 2015.10.26
- 22 Найближчими днями на високігір'ї Карпат очікують хуртовини // Львівська газета. 2015.10.10
- 23 За дитячий журнал «Барвінок» — під арешт // Хрещатик. 2015.10.29
- 24 Для вступників із Криму Україна може запровадити квоти // Експрес. 2015.10.24
- 25 Екс-радник Путіна прогнозує для України другий дефолт // Хрещатик. 2015.10.19

#### 参考文献

- 亀井孝、河野六郎、千野栄一 1998. 『言語学大辞典 第I巻 世界言語編(上)』三省堂
- 中澤英彦 2009. 『ニューエクスプレス ウクライナ語』白水社
- 中井和夫 1991. 『ウクライナ語入門』大学書林
- 三谷恵子 2011. 『スラヴ語入門』三省堂
- P.J. ホッパー、E.C. トラウゴット 訳：日野資成 2003. 『文法化』九州大学出版会
- Stefan M. Pugh and Ian Press 1999. *Ukrainian a comprehensive grammar*. New York: Routledge.
- Oscar E. Swan 2012. "Why bydy?" *Russian Linguistics*, November 2012, Volume 36, issue3, pp305-318.
- Roksolana Mykhaylyk 2010. "Diachronic universals and morpheme order in the Ukrainian synthetic imperfective future" *Morphology*, October 2010, Volume20, Issue2, pp359-380.
- Marika Lynn Whaley, M.A. 2000. "The evolution of the Slavic 'be(come)'+ type compound future" Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree Doctor of Philosophy in the Graduate School of The Ohio State University, dissertation.
- Andrii Danylenko 2009. "The East Slavic 'HAVE': between be- and have- patterning?" [https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/pdf\_seminar/20090619Danylenko.pdf] (2016 年 7 月 24 日閲覧)
- Andrii Danylenko 2010. "Is there any inflectional future in East Slavic? A case of Ukrainian against Romance reopened." *Grammaticalization in Slavic Languages: from areal and typological perspectives*. Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University. 147-177.
- Östen Dahl 2000. "The grammar of future time reference in European language" In Ö Dahl(Ed.), *Tense and aspect in the languages of Europe* Berlin/New York: Mouton de Gruyter. pp.309-328.
- Žylko F. T 1966. "Narysy z dialektolohiji ukrajins'koji movy" Kyiv: *Radjans'ka škola* pp.101-102.
- Марчилю ЛМ (1999). "Історія форм майбутнього часу дієслова в українській мові." Ph.D. dissertation. Kyiv. Ms.CNB NAN of Ukraine

調査資料

Уніан キエフ発行 <http://www.unian.ua/> (2016 年 7 月 24 日閲覧)

Хрещатик キエフ発行 <http://www.kreschatic.kiev.ua/> (2016 年 7 月 24 日閲覧)

Львівська газета リヴィウ発行 <http://www.gazeta.lviv.ua/> (2016 年 7 月 24 日閲覧)

Експрес リヴィウ発行 <http://expres.ua/> (2016 年 7 月 24 日閲覧)